

# 牛久：学校周辺に見る自然

第13号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2021年6月6日発行

## ＜ 初夏のみずべ公園 ～ハコネウツギに集まる虫たち ＞

みなさん、こんにちは。ひたち野うしく小3、4年生とのみずべ公園。今回は、ハコネウツギとそこに集まる虫たちの紹介です。



白からピンク、赤紫へと、花の色が変わっていくハコネウツギ。花の集まりの中で、下の花から順に咲き進む。

こちらが、ハコネウツギ。花は、白から赤紫までいろいろですね。じつは咲き始めは白なのですが、だんだんとピンクから赤紫へと変わっていきます。ですから、つぼみはどれも白ですね。そして、花の集まり（花序）の中で下の方の花から順に咲き進むので、下の方の花ほど赤が濃くなっています。ラッパのような形をしていて、その奥に蜜を出すところがあります。

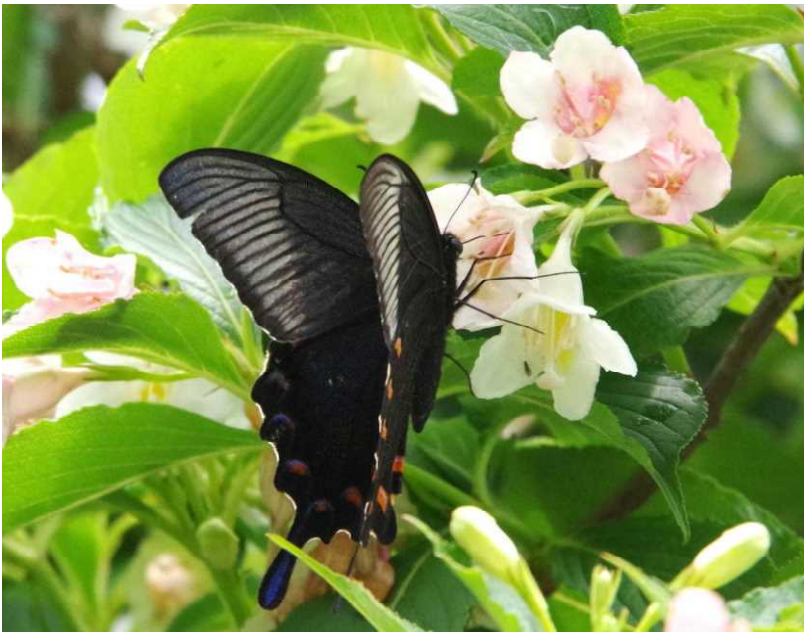
花にはトラマルハナバチやクマバチ、ハキリバチの一種が来て、みつを吸っていました。ト

ラマルハナバチやクマバチは体が大きくて、羽音も大きくこわそうですが、ミツバチ同様、たたいたりつかんだりしなければ、まず刺されることはありません。ベルのような花に頭をつっこんでみつを吸うので、出てくると頭や胸など体にたくさんの花粉がついています。花はみつをとられるだけでなく、花粉を運んでもらってもいたのですね。



ベルのような形の花に頭をつっこんで蜜を吸うトラマルハナバチ。頭から胸にかけて、花粉だらけになる。





花にもぐり、花粉<sup>かふん</sup>や蜜をなめている  
 コアオハナムグリもたくさん見  
 かりました。花にもぐるので「花潜<sup>はなもぐ</sup>  
 り→花むぐり」でしたね。緑がかつたも  
 のから茶色<sup>ちやいろ</sup>っぽいもの、黒っぽいもの  
 などいますが、どれも同じ種類<sup>しゅるい</sup>です。  
 中には、1頭もぐっている花にやって  
 来て、さらにそこにもぐりこんで  
 花粉<sup>かふん</sup>をなめようとしているものもいま  
 ました。他の花に行けばいいのにな。

カラスアゲハもやって来て、みつ  
 すを吸<sup>す</sup>っていました。

花粉だらけになったハキリバチ（左上）と、蜜<sup>みつ</sup>や花粉<sup>かふん</sup>をなめるコアオハナムグリ（右）と、蜜<sup>みつ</sup>を吸<sup>す</sup>うカラスアゲハ（左下）。



アブラムシを食べるナミテントウ（左上）と、そのさなぎ（右）、さなぎを食べるアリグモのめす（左下）。

葉<sup>は</sup>や枝<sup>えだ</sup>には、ナミテントウやそのさなぎ、幼虫<sup>ようちゆう</sup>  
 が見つかりました。例年<sup>れいねん</sup>より少なめでしたが、ア  
 ブラムシを食べている姿<sup>すがた</sup>も見られましたね。甘い汁<sup>あまじり</sup>  
 もらいに、アリも来ていました。さなぎを食べるア  
 リも…、と思ひよく見ると、アリグモでした。め  
 すは、アリそっくりですね。【理科支援員：宮内】